

留学報告書 ～様々な挑戦と成長～

カゼノビア大学
外国語学部生（長期）

私は2018年8月から2019年5月までニューヨーク州にあるカゼノビア大学に留学していました。カゼノビアは小さな町ですが、綺麗な湖があって、町のどこに行っても素敵な人たちと自然で溢れています。建物も日本とは全く違う造りで可愛くて映画の中にいるような感覚でした。一番好きだった場所はカゼノビアレイクでしたが、町で有名なチョコレート屋さん、ピザが大変美味しいと評判のCazPizzaにもよく行っていました。冬になると氷点下10度、最低気温氷点下20度を下回ることもあって、10月から4月下旬まではほぼ毎日雪が降っていました。冬が一番好きな季節だということもあって、私は毎日雪を見るのが楽しみで、特に朝一に寮を出て、辺り一面真っ白な雪に覆われているのを見て、ワクワクしながら授業に行くのが大好きでした。

カゼノビア大学は全学年で約900人の生徒しかなくて、名古屋学院大学に比べたら小さな大学です。しかし、小さな大学だからこそ生徒や先生方、皆が顔見知り、誰とでも気軽に挨拶できるような環境でした。そして、カゼノビア大学には様々な学部があって、ファッションや馬術、刑事司法やビジュアルコミュニケーションといった珍しい専攻科目もたくさんあります。部活動やサークルもたくさんあって、2つ以上のクラブに所属する人も少なくないです。私はダンス部とアニメ部に所属していました。ダンス部は週に2、3回あって、イベント前になるとほぼ毎日練習していました。夜10時までの練習だったので、勉強との両立は大変でしたが、身体を動かしたり、踊ったりすることによってストレス発散していました。

実は、私はずっと前から留学をすることが夢でした。そのため、長期の交換留学生として選ばれたと知った時は本当に嬉しかったです。留学をするにあたって、私は二つの目標を掲げていました。一つ目はもちろん、英語能力の向上です。留学に行く前から英語が好きで、得意科目だという自信がありました。しかし、いざ留学生活が始まると、普段の会話すら通じなくて、授業を聞き取ることも出来ませんでした。日本で受けていた英語の授業はいかに先生方が丁寧に、そして、ゆっくり話してくれていたのかがわかりました。ESLの授業が一つだけで、それ以外の授業は全て本科用で現地の学生と一緒に受けていました。具体的には、私は前学期ではESL、心理学、陶芸と劇作のクラスを取っていました。ESLのクラスは英語の基礎的なことを学ぶのが主な目的だったため比較的簡単でした。心理学のクラスは元々興味があったため取って見ましたが、やはり専門用語が多くて、内容自体理解するのは難しかったです。課題やレポートも多くて、定期的に小テストも行われていました。大変でしたが、先生がとても優しい方で、わからないことがあればすぐに聞き

に行くこともできましたし、時々授業で使われるスライドを事前に送って来ていました。陶芸のクラスは先生が見本を作りながら、アドバイスを交えて作り方を詳しく説明してくれていました。一からポットを作ったり、タイルを作ったり、コップを作ったりしました。劇作のクラスは自分で一つのストーリーを作ることが一番大きな課題でした。登場人物を作り、ストーリーをいくつかのエピソードに分けて作り、それをグループなどに分かれて発表していました。後期では、ESL、スペイン語、エフェクティブスピーキングと国際ビジネスのクラスを取っていました。スペイン語のクラスはスペイン語と英語を同時に学ぶような授業だったので、面白かったです。エフェクティブスピーキングのクラスは人前で上手にプレゼンできるようになることが目的だったので、様々なスピーチを作り、クラスメイトの前で発表することが多かったです。国際ビジネスのクラスはビジネスの基本を学びました。また、課題として、国際的な企業や起業家について調べて、国際ニュースに関するレポートを作っていました。課題やテストが多くて大変でしたが、レポートが終わる度に達成感があって、面白いクラスだったと思います。アメリカの授業と日本の授業は全く違うので慣れるまで苦労しましたが、リスニング能力だけではなく、ライティング、リーディングそして、スピーキング能力は確実に向上したと思います。

二つ目の目標は積極的に行動できる人になることでした。実際、留学すること自体自分の中では大きな挑戦でしたが、留学中でも、今まで一度もやったことのないことに色々と挑戦することができました。人生で初めてカヌーをして、馬に乗って、一人旅をして、球場で野球観戦をして、アイスフィッシングをして、ナイアガラの滝に行きました（等々）。さほど特別なことではないのかもしれませんが、どれも楽しくて思い出に残る体験ばかりです。そして、これらの経験をさせてくれた留学先の先生方や新しく友達になってくれた人たちに感謝です。カゼノビアには優しい人がたくさんいます。

カゼノビア大学との交換留学は今回が初めてだったので、ほとんど情報がなく、留学に行く前は未知の世界に行くような気がして、緊張と楽しみな感情でいっぱいでした。現実には甘くなくて、留学当初は授業についていけず、周りともあまり上手に溶け込めず、英語もわからなくて毎日必死でした。初めての日本人留学生として、プレッシャーと不安も毎日ありました。他の留学先が良かったのではないかと思うことさえありました。しかし、カゼノビアだったから出来た経験と、カゼノビアだったからこそ出会えた人々、そして、カゼノビアだったからこそ、ここまで成長することが出来たと思います。10カ月間の留学は想像していたよりもずっと大変で辛い時もたくさんありました。けれどそれと同時に、嬉しいことや楽しいこともたくさんあって、本当に充実していました。半年過ぎたあたりからは、自分でもわかるように英語力が伸びて、どの授業もほとんど問題なく聞き取れるようになり、さらに、自分自身も積極的になっていき、自信を持って周りの友人と話せるようになりました。これが何より留学して良かった、そして、頑張って良かったと思えた瞬間でした。アメリカで過ごした日々は一生忘れることはない大切な思い出になりましたし、これからも留学を通して学んだことを活かして頑張りたいと思います。

